

人体の構造と機能

専門基礎分野

授業科目	小さな生物	講師	氏名	下川 修	開講年次	単位・時間
			所属		1年次 前～後期	1単位 30時間
			実務経験	元教授		
科目の ねらい	微生物(細菌、ウイルス、真菌、原虫)の生物学的な特徴を学ぶ。また、微生物が生体に及ぼす影響を理解するとともに、感染症の原因となる微生物の基礎を学ぶ。					
到達目標						
知識・技術	1. 病原体としての微生物(細菌、ウイルス、真菌、原虫)について、種類と特徴を述べることができる。 2. 消毒薬の使用上の注意を理解し、消毒薬を濃度計算し作成できる。					
思考・ 判断・表現	1. 宿主の臓器、組織別の症状より、病原体である微生物の形態や性状を予測し、検査、治療を説明できる。					
主体的学習態 度	1. 社会的に話題や流行になっている感染症に対して、自ら調べ述べるができる。					
科目評価	定期試験(筆記) 100%					
テキスト	ビジュアル微生物学 第2版 (ヌーヴェルヒロカワ)					
参考文献	ナースのための微生物学 ～感染症とその対策の理解のために～ (南江堂) ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち③臨床微生物・医動物 (メディカ出版)					
回数	教育内容	教育方法			関連科目	留意事項
		講義	演習	その他		
1	微生物学の導入 歴史、微生物の特徴	○			下川 修	公衆衛生
2	細菌学総論	○				からだの機能 日常生活から見るからだ
3	細菌の検査法 グラム染色 手指に付着する細菌培養	○	○			
4	細菌学各論	○				
5		○				
6	滅菌と消毒 消毒薬の作成(濃度計算)と取り扱い	○	○			
7	感染症の治療と予防 多剤耐性菌	○				臨床薬理学
8	ウイルス学総論	○				からだの機能 日常生活から見るからだ
9	呼吸器感染症(インフルエンザウイルス、 肺炎球菌)、結核菌	○				
10	消化器系感染症(O157, コレラ菌、赤痢 菌、チフス菌、ヘリコバクターピロリ)、 肝炎	○				
11	尿路感染症(大腸菌、緑膿菌)、性感染症 (ヒト免疫不全ウイルス、クラミジア、淋 菌)	○				
12	皮膚・粘膜感染症(A群連鎖球菌、黄色ブ ドウ球菌)、脳・神経系感染症(髄膜炎 菌、日本脳炎ウイルス)	○				
13	人獣共通感染症、寄生虫	○				子どもの病を看る、 リプロダクティブヘルス の看護 高齢者看護へようこそ
14	小児、母子、高齢者感染症	○				
15	日和見感染症 手術部位感染の原因菌	○				